

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000213
法人名	株式会社 ケア21
事業所名	グループホーム たのしい家 桂(1)
所在地	京都市西京区桂稲荷山町12-2
自己評価作成日	令和5年7月1日
評価結果市町村受理日	令和5年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2694000213-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和5年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護に力を入れております。認知症介護は毎日が勉強です。一人ひとりに向き合い、話を聞きます。ユマニチュードを実践するよう職員に伝えております。見て、話して、触れて、立つという技術をいくつかかけ合わせてケアを行うようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家桂は、株式会社ケア21により、2017年2月に開設されました。利用者定員は18名で、現在の平均年齢は85.8歳、平均介護度は3.3です。利用者コロナ感染発症があり大変な時期がありましたが、職員への感染はなく乗り切っています。コロナ禍では室内レクリエーションを頑張りました。食事も職員が手作りで提供を続けています。月1回はリクエスト食に応え、週2～3回の手作りおやつも提供しています。利用者はできることで参加しています。現在の目標は「1番の認知症ケア事業所になる」取り組みです。認知症であっても「いや」「好き」の感情はあり、個々の個性を見極め無理強いはいしない、利用者の気分の回復を待つことも大切にして、寄り添う介護に取り組んでいます。技能実習生も言葉の壁を突破し、順調に成長があると聞きしました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を各フロアに掲示、共有し実践している。	会社の経営理念(9項目)、事業所理念「Sun Sun Smile」「21ビジョン」を各ユニットに掲げている。今期の第30期21ビジョン「生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流」の3視点で行動計画各5項目を立て、事業展開している。認知症緩和に「1.セラピードッグ 2.季節ごとのレクリエーション 3.一緒に唄ったり、体操をする 4.食べたいものを聞き、できる限り一緒に買い物に行き食事を作る 5.1日1回は大笑い」が挙げられている。日常生活で日々提供しているが、セラピードッグのみ機会がなく模索中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域交流は薄い。	コロナ禍で地域との交流は活発ではないが、近くにパン屋さんが開業し、以後パン食い競争(運動会)用に毎年注文している。うなぎ屋さんも馴染みがある。地域の高校(植物クリエイト科)が花苗の販売をしており、定期的に購入支援している。玄関先のプランターに多くの花々が植えてある。大正琴のボランティアがコロナ禍でも毎月訪れ、利用者を慰安している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を得られるように努力している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2023年6月開催より施設にきていただき意見を聞いている	コロナ禍では書面会議をしていたが、令和5年6月から対面会議である。6月の会議メンバーは家族、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員である。利用者の状況、職員の異動、食事やおやつ、レクリエーション活動、利用者利用料の変更についてなど報告している。事故、ヒヤリ・ハット報告には、皮膚に傷やあざなどある場合は写真に撮り、報告書に添付している。会議メンバーから質問や助言もある。	現在民生委員の方に、運営推進会議メンバーを依頼中とお聞きしました。メンバーが所用で休まれる場合もあるでしょう。地域代表メンバーが2人程おられると、より充実した会議になると期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは聞いている	行政に運営推進会議議事録を持参し、事故報告書は郵送している。利用者のコロナ感染発生時には、電話でゾーニングなどの指導があり処置用手袋の支給もあった。管理者は併設の小規模多機能型居宅介護事業所も兼務しており「西京よろし会」に参加している。西京区の方々と連携をとり、研修にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアドアは施錠しているが一緒に出る事可能である	「身体拘束適正化検討委員会」は、全体会議の中で2か月ごとに実施している。研修は本社が年2回（オンラインで受講）を組み、研修報告書を提出している。追加での本社研修もあり、人材教育の一環として順番に職員参加を勧めている。利用者の中には、荷物をまとめ帰り支度をする方もおられ、ユニット入り口は施錠している。管理者は常に、利用者が答えられる声掛けや、利用者主体の介護行為を職員に助言している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で年2回の高齢者虐待について研修を受けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で研修を実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に時間をかけて説明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回 お客様満足度の実施	令和5年5月13日より面会を再開している。手指消毒し、居室で1時間（4人まで）である。家族との外出も許可されたが、職員との外食許可はでない。要望は申し送りをするともに、タブレット入力で管理日誌に記入している。一定期間連絡事項を残すこともでき、管理者がフロアリーダーが書き込み、職員が閲覧している。会社が年1回顧客満足度調査をしており「感謝の言葉が多かった」と報告を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回施設会議を開催。従業員満足度アンケートの実施	管理者はフロア会議や全体会議、年3回の個人面接時に職員からの意見を聞き取っている。自己申告シートには「入居者様に信頼されるまたは、認められる存在になりたい」との目標もあり、実務者研修への自己申告もある。各会議では、シャワーキャリーの修理依頼、ポットの破損報告、掃除機の購入依頼、業務の流れについての検討などしている。管理者は毎月「ほめカード」を全職員に書き渡している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び人事、キャリア段位制度、自己申告シート、ほめカードの活用		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得の為の制度がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職ごとの会議を開催		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報の共有		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の悩み、不安を傾聴		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様と話をし、よりよいサービスの提供をする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとり出来る事を役割分担し、張り合いある生活の提供を促す		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支え家族様にも協力してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会緩和になったのでこれからまた関係が継続できるかと思う	コロナ禍で家族以外の方との交流は減少している。外出が許可され、歩ける利用者は歯磨きや洗顔料を買いに職員と出かけている。料理やお菓子作りが得意だった方は、食事・お菓子レクリエーションで腕を振るっている。歌を習っていた方は入浴中も歌っている。利用者の得意なことは介護計画で立案し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士会話が弾んでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後も何か困り事あればいつでも連絡してくださいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様に意思決定して頂いている。	「利用者に『いや』や『好き』の感情はあります。無理強いをすることなく、それぞれの個性を見極め気分の回復を待つなどの対応も必要であり、問いかけは答えられるような言葉を使っています。また、利用者の言動は否定しないように統一しています。これらを通し利用者へのかかわりが増えていきます。」と、管理者は述べている。利用者の要望は日々のレクリエーション活動に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを図り昔話等を聞き出しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を申し送り等で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意向を聞き介護計画を立てている。	ケアチェック表で心身の状態を把握し、評価している。モニタリングは6か月ごとに評価表を用いて実施し、1年ごとにサービス担当者会議を開催(必要時は臨時でも開催)して、個別支援計画の見直しをしている。サービス担当者会議に利用者と家族の出席もあり、諸意向を聞き取っている。短期目標を「楽しみややりがいを持ち過ごすことができる」と設定し、好きなこと、できること、役割など支援している。解決すべき課題の内容が、目標の根拠として不十分なものもある。	ケアチェック表で心身の情報を収集し、評価して課題整理をされています。介護計画として立案しなければならないと思った根拠は、介護計画内の課題に書く必要があります。この介護の提供はなぜおこなっているのか、課題と目標の整合性を期待します。

京都府 グループホーム たのしい家 桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや記録、申し送り等で職員間情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携、歯科、散髪、福祉用具等活用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ多くの選択肢を提供できるようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、またはかかりつけ医の継続	入居時に利用者(家族)はかかりつけ医を選んでいる。協力医療機関(月2回訪問)を希望する方が多いが、在宅時からの医師を継続し、月1回の往診と24時間の連携体制の方もいる。訪問看護も週1回あり、バイタルチェックや医療的な対応の指導を受けている。希望者は歯科医や歯科衛生士の治療や口腔ケアも受けている。外部への受診は、家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で必要に応じて適切な医療機関への連携、施設内での対応を指導していただく		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け入院先の情報を小まめに頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の指針を説明。本人、家族様の意向を汲んだ看取り介護を行っている	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」により、終末期や看取りについての説明をし、同意を得ている。看取りの研修は、本社のオンライン研修を全職員が受講し、報告書を提出している。事業所内では「ありがとう大切な人を送るために」の看取りの冊子で研修をおこない、看取り期には家族、医療関係者、職員で話し合いを重ねている。今年度は101歳の方の看取りをおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議、カンファレンスで職員に説明指導行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西京消防署の方の協力を得て訓練を実施している	災害対策のマニュアルは作成し、消防訓練は昼夜想定で年2～3回、毎回消防署の立ち合いを依頼して実施し、通報、避難誘導、消火訓練(水消火器)をおこなっている。利用者も各廊下まで避難している。自然災害では水害時は3階への垂直避難となっている。備蓄は、本社から水、お粥、携帯トイレ、ブランケット、クッキーなどが3日分届いており、3階の倉庫に保管している。救急救命やAED研修は消防署で職員が順番に受講しており、今年も秋に受講予定がある。BCP(事業継続計画)は作成している。地域の方の参加はない。	諸訓練に地域の方の参加が得られていません。まず運営推進会議メンバーに参加していただき、課題を見極めたり、地域の方たちの協力を得るための助言を得られることを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックにならない声掛けを指導している	接遇マナーやプライバシー、人権などの研修は、全職員が本社のオンライン研修を受け、報告書を提出している。利用者の呼び方は「〇〇さん」と呼び、居室への入室時は、ノックしてから入っている。トイレのドアは閉めているが、開けっ放しでドアを閉めるのが嫌な方の場合には、利用者の思いを大事にして家族に了解を得ている。入浴時は羞恥心に配慮した関わりをしている。職員の言動が気になる場合は、管理者が個別に呼んで伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を聞き出し、本人決定を促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースで日々過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自分で、出来ない方は職員が行っている。特に洗顔はなかなかできないのでホットタオルで顔を拭いている。		

京都府 グループホーム たのしい家 桂(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食レクはたくさん行っている。リクエスト食にすることもある。	食事は業者から届けられた食材で職員が手作りをしている。月1回はリクエスト食で利用者に何が食べたいか聞き、好みの物(カレー、スパゲッティ、お好み焼き、餃子、ハンバーガー、カップラーメン、鰻井など)と一緒に作っている。手作りのおやつは週2～3回おこない、ホットケーキ、プリン、たこ焼き、餃子の皮でアップルパイなどを作っている。食事形態は、刻み食やペースト食にも対応している。誕生日は一人ひとりお祝いしており、スポンジケーキとともに、嚥下状態に合わせたゼリーの誕生日ケーキを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量に変化あれば記録に落としカンファレンス等で情報共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。	一人ひとりの排泄パターンに合わせて支援し、日中は紙オムツ使用の方以外は、トイレでの排泄を基本としている。紙オムツの方でも排便時は2人介助でトイレ排泄の方もいる。排便時はウォシュレットで陰部洗浄をおこない、紙オムツの方は1日1回陰部洗浄し、排便後もおこなっている。「おしりふき」も適宜使い、清潔に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べる前に水分摂取を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には無理強いせず、別日に入浴している	週2回午前中に入浴し、お湯の入れ替えは1人ずつおこない、希望者には同性介助で対応している。入浴は30分位かけ、身体にあざなどないか観察し、視線を下げないように羞恥心にも配慮し、身体に傷をつけない支援をしている。楽しい会話(好きなことや家族のことなど)を心掛け、入浴を楽しむ工夫をしている。季節湯や入浴剤の使用は、皮膚疾患の方もおられやめている。家族持参のシャンプーを使っている方もいる。湯船に入れない方には、2人介助でシャワー浴を提供している。入浴拒否の時は無理強いせず、時間を変える、日を変えるなどしている。	

京都府 グループホーム たのしい家 桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた起床、就寝を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減、新しい薬を服薬した際は様子観察をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を担ってもらう。同じ事を長時間させず、出来る事を引き出しながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行けたらと思う。	コロナ禍では日常的な散歩はできていない。現在許可は下りているが、暑さが厳しく日常的にはおこなっていない。玄関横に並んでいるプランターの花の水やりや、メダカを眺め餌やりをしている。歩ける方は職員同行で買い物に行くようになり、事業所の買い物と一緒にいく方もいる。4月の初めにはドライブでお花見に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つての買い物ができる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自分でかけている。		

京都府 グループホーム たのしい家 桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた環境で過ごせるよう配色、電飾の色などに配慮している	リビングは東と北に窓があり、利用者がゆっくり過ごせる広さがある。壁には利用者の作品(コーヒーフィルターに絵の具で色をつけた朝顔や折り紙で作った虫など)を飾っている。体操は毎日おこない、歌をうたう、かるた、ジェンガ、パズル、作品作りなどのレクリエーションや、食事レクリエーションも楽しんでいる。ソファが2台並べてあり、寛いだり寝る方もいる。換気には気をつけ、窓を開け、空気清浄機は本社から2台、事業所で1台購入し、3台使用している。掃除は、利用者と一緒にすることもあるが、夜間にモップで拭くなど清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ってきてもらう	居室には照明、エアコン、クローゼット、ベッド、カーテンを備え付けている。利用者は、小さなテーブル、椅子、テレビ、仏壇などを持参している。規制している物は刃物で、はさみは預かっている。掃除は、週2回職員が掃除機やモップでおこなうが、利用者が手伝うこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見渡せるので困りごとあればすぐに支援できる		